

## 親子俳句教室を終えて

6月19日、九町小学校で最後となる親子俳句教室が開催されました。例年より早い時期での開催となり、炎天下の中での実施となりましたが、多くの保護者の皆様に御参加いただき、誠にありがとうございました。また、本行事を企画・運営して下さった教養文化部の皆様にも、心より感謝申し上げます。

当日は、本校の大先輩であり、俳人の坪内稔典先生を講師にお迎えし、児童たちとともに楽しく俳句づくりを行っていただきました。稔典先生も、小学生との俳句創作を大変喜ばれていました。



今回、皆様に詠んでいただいた俳句を基に、最後の親子文芸作品集『薫風』を制作いたします。

この『薫風』の第1号は1998年に発刊されました。当時の校長は清水昭伸先生、PTA会長は大橋伴久さん、教養文化部長は松田光一さんでした。松田さんの編集後記には、坪内稔典先生の講演がきっかけで『薫風』の制作が始まったことが記されています。「子どもたちの応募はある程度予想していましたが、保護者の応募についてはまったく悲観的なものでした。しかしながら、これは我々の大誤算でした。」そう綴られた通り、回を重ね

るごとに保護者の皆様から多くの作品が寄せられるようになりました。

「さわやかな心地よい風が、いつも皆さんの心の中で吹き続けてほしい」との願いを込めて、『薫風』というタイトルが付けられたそうです。

「あさがおの つるがまきつくへびみたい」

これは、当時の1年生が詠んだ一句です。ふと目にした光景が、1年生らしい素直な言葉で表現されています。「できれば2号、3号と続いてほしい」と願われた『薫風』は、その後、なんと第29号まで続きました。ちなみに、あさがおの俳句を詠んだ1年生は、今では2児のパパになっているそうです。

九町小学校での親子俳句教室は、今年度で一区切りとなりますが、これからも皆さんの心の中に、さわやかな「薫風」が吹き続けることを願っています。

(左) 薫風の第1号  
(右) 木陰の下で一句

